

定量的経営改善計画書の策定により 金融機関との取引が円滑化

工事受注減少による資金難 スムーズに融資が受けられなくなった

入札状況によって売上が変動する公共工事の元請仕事を中心に行っていた林代表だが、近年では工事自体も減少し受注が少ない状態が続いていた。受注が発生しても運転資金が必要であり、金融機関の融資は頼みの綱である。これまで金融機関の支援は得られていたものの、業績好調時のように決算書や試算表を提出するだけでスムーズに融資を受けることは難しくなり、経営改善計画書の提出を要求されるようになっていた。そんな折、顧問税理士から、過去に当拠点に相談した顧問先が経営改善に成功した話や、金融機関や建設業界に詳しいコーディネーター（以下、Co）がいることを聞き、来所した。

民間事業者からの下請け受注等 公共工事の隙間を埋める取り組みの検討

Coはまず経営状況を把握するため、決算書による過去の財務分析を実施。売上高が完成工事高で計上されているため、試算表では実態が伝わりにくく、金融機関側が融資を検討しやすい資料（経営改善計画書）を作成する必要があることを確認した。また受注変動が激しい公共工事の元請中心のため、収益力を向上するには売上の規模拡大とともに、人員増による能力向上と受注の平準化は避けられないことも認識。民間事業者からの下請け受注等、公共工事の隙間を埋められるような取り組みの検討も必要と判断した。

経営改善計画書作成に向けて 工事概況表のフォーマットを提案

金融機関に提出する資料の作成に向けて、Coは工事概況表のフォーマットを提案。このフォーマットは会計的知識を必要とせず、工事原価の見積から入出金のタイミング等、相談者の日常的業務から落とし込めることが特徴である。これを活用し、今後の公共工事の見込みと民間事業者からの下請け工事等の獲得戦略を考える機会も提供。決算書と工事概況表で見通しを作っていく作業を踏まえ、会計的な知識を要求される損益計算書と貸借対照表を5年計画に落とし込むところは、相談者と一緒にCoが作成を支援した。

完成した経営改善計画書によって 予定より好条件の資金調達に成功

相談者が日常的に行っている現場感覚で定量的な計画に落とし込みやすいフォーマットを提供したことで、改善計画の策定が円滑に進んだ。工事概況表の作成は、Coのアドバイスを得ながら策定していくことで、年間の繁閑の「見える化」も実現。また、受注平準化のために施工管理の下請業務の営業活動を展開したところ、施工管理業務だけで相当量の注文が得られるようになってきた。Coの作成支援で完成した工事概況表、経営改善計画書を金融機関に持参し、相談者自身で内容を説明したところ、当初予定よりも好条件の資金調達に成功。相談者はこの実績を自信に売上拡大に邁進中である。

【会社概要】

有限会社隆富

代表者：代表取締役

林 隆司（はやし たかし）

住所：〒652-0805

兵庫県神戸市兵庫区

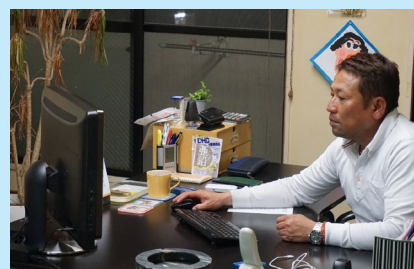
羽坂通3丁目7番4-202号

電話番号：（078）531-6080

事業内容：公共工事を中心とした土木工事業者。
一級土木施工管理技士で代表の林氏は、地場の土木事業会社勤務後に独立して現在に至る。創業以来、公共工事の元請仕事をメインに歩道整備工事等を得意とする。



工事ごとの粗利の見込を作ることで、公共工事入札における見積時の利益意識も変わってきた



日々の計数管理は林氏自身が会計ソフトに打込み、数字の実態を歪めることなく正確に理解している



「客観的立場で計画作りをサポートしていただき、相談して本当に良かったです」と語る林氏（右）